

厚生労働科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業)
(総括(分担)研究報告書)

聴覚障害児に対する人工内耳植込術施行前後の効果的な療育手法の開発等に資する研究

研究分担者 神田 幸彦 長崎大学 医歯薬学総合研究科(医学系) 客員研究員

研究要旨

人工内耳植込術施行前後の多職種連携による効果的療育に係る好事例・青年～成人の先天性難聴症例に対する人工内耳植込術に関する新たな知見について

A. 研究目的

本研究は事例に関わる傾向をデータ収集して、将来的に我が国の先天性難聴人工内耳症例で青年～成人症例のより良い聴覚回復に繋げられ、先天性難聴医療や人工内耳医療の社会的な啓蒙に結びつけられることを目標としている。

B. 研究方法

好事例集や先天性難聴青年～成人症例の調査依頼文作成や作成例、エクセルデータシートを作成。実態調査を行う。
(倫理面への配慮)

研究対象者に対する人権擁護上の配慮のため、共同研究を行う予定の研究協力者の施設において倫理委員会申請などを行い、十分なインフォームドコンセントを行う。

C. 研究結果

あらかじめ作成した作成例、およびエクセルのデータベースを作成し、全国の約35の人工内耳施設、療育施設に送付した。結果を途中経過報告としてリストアップした。人工内耳好事例集が60症例、先天性難聴青年～成人症例が38症例、途中報告として集められた。

D. 考察

人工内耳の多職種連携による好事例および先天性難聴の青年～成人症例は日本中の医療機関に存在し得ることが想定された。

今後もそれらの症例を日本中で収集しデータベースを元に先天性難聴の療育のガイドライン作成に参考にするとともにわが国における人工内耳の正しい理解について啓蒙を図っていくことも必要であると考察した。

E. 結論

人工内耳植込術施行前後の多職種連携による効果的療育に係る好事例集および青年～成人の先天性難聴症例に対する人工内耳の症例の収集は重要である。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

・神田幸彦：補聴器と人工内耳の聞こえの特徴に関する経験と考察。
MB ENTONI. 248、45-55、2020

・神田幸彦、吉田翔：聴覚障害をもつ児童・生徒が受験する場合に英語のリスニングなどで優遇措置はありますか？ JOHNS. 36 (9)、1128-1130、2020

・Hiroki Miyajima, Hideaki Moteki, Timothy Day, Shin-ya Nishio, Takaaki Murata, Tetsuo Ikezono, Hidehiko Takeda, Satoko Abe, Satoshi Iwasaki, Masahiro Takahashi, Yasushi Naito,

Hiroshi Yamazaki, Yukihiko Kanda,
Shin-ichiro Kitajiri & Shin-ichi Usami.
Novel ACTG1 mutations in patients
identified by massively parallel DNA
sequencing cause
progressive hearing loss.
Scientific Reports, Nature Research,
volume 10, Article number: 7056, 2020

・神田幸彦. : 難聴児に対する
オンライン診療. 日本耳鼻咽喉科学会会報
in press.

・神田幸彦、吉田晴郎、佐藤智生、
小路永聡美、木原千春、北岡杏子、
熊井良彦、高橋晴雄：難聴児療育システ
ムの構築－新生児期（新生児聴覚スク
リーニング、先天性サイトメガロウイルス
感染症含む）－. 日本耳鼻咽喉科学会
会報 in press.

2. 学会発表

・神田幸彦. : 「難聴児療育システ
ムの構築」1、新生児期（新生児聴覚スク
リーニング、先天性サイトメガロウイル
ス感染症含む）. 第121回日本耳鼻咽喉
科学会総会・学術講演会シンポジウム
（大阪市、10月 西崎和則教授）

・神田幸彦. : 「難聴児に対するオンラ
イン診療」. 第34回日本耳鼻咽喉科学会
秋季大会 領域講習シンポジウム
－耳鼻咽喉科医による在宅医療の実際－
（大阪市、11月 武田憲昭教授）

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得
該当なし
2. 実用新案登録
該当なし
3. その他
該当なし